

## 平成 2 5 年度第 2 回理事会議事概要

日 時： 平成 2 5 年 5 月 2 9 日（水） 1 5 : 3 0 ~ 1 6 : 1 5

場 所： 特別会議室

出席者： 理事長 鈴木 和夫

理事（企画・総務担当） 城土 裕

理事（研究担当） 大河内 勇

理事（育種事業・森林バイオ担当） 井上 達也

理事（森林業務担当） 青木 庸三

理事（業務承継円滑化・適正化担当） 森下 眞行

監事 滑志田 隆

監事 西田 篤實

総括審議役 森田 一行

総括審議役 安藤 伸博

審議役 渡邊 聡

企画部長 落合 博貴

総務部長 藤江 達之

## １．開会

## ２．議事

本日は、議題が１件、報告が３件となっており、次第に従って報告いただくこととしたい。

### （１）平成２５年度の会計監査人の選任について

（総務部長）＜資料　－１を説明＞

平成２５年度会計監査人候補者の選定については、３月３０日の理事会で承認いただいた案に基づいて提案書の募集等の手続きを進めてきたが、新日本有限責任監査法人、有限責任監査法人トーマツ、有限責任あずさ監査法人、あらた監査法人の４者から応募があり、５月２３日に審査委員会を開催し、提案書の内容について検討を行い、候補者を選定したので審議いただきたい。

審査委員会においては、審査委員による定性評価と定量評価をあらかじめ定めた方法により点数化した結果に基づき、総合点及び各項目の内容を審査し、新日本有限責任監査法人、有限責任監査法人トーマツ、有限責任あずさ監査法人のいずれも、多くの独立行政法人の監査実績を持ち、独立行政法人の制度及び会計に精通しているなど監査業務及び支援業務が効率的かつ円滑に実施可能と判断された。

そうした中でも、有限責任監査法人トーマツは、定性評価項目において監査内容において監査日数が多いこと、公認会計士法に基づく処分歴がないこと、さらに、定量評価項目である会計監査費用の参考見積額が有利性を示していたことから、有限責任監査法人トーマツが会計監査人候補者として最適と判断された。

有限責任監査法人トーマツについては、平成２３年度の会計監査人として選任され、業務について誠実かつ確実に業務が履行されたことを申し添える。

なお、理事会で承認を得られた後、監事の同意を得た上で、文書決裁を受け、農林水産大臣への選任請求を行うこととしたい。

（理事長）

平成２４年度は、新日本有限責任監査法人が選任されたがその時とはどのような差あるいは改善があって、今回有限責任監査法人トーマツが選ばれたのか。

（総務部長）

監査内容の項目で実地監査の日数が多かったこと、そうであるにもかかわらず

ず監査費用が低かったことが有限責任監査法人トーマツを選定した理由と考えている。

（城土理事）

審査委員会では、審査の際の点数配分も含めて今後検討が必要との意見があり、来年度に向けて検討を進めたい。

（理事長）

本件議題については理事会として了承された。

（２）独立行政法人評価委員会の今後の予定について

（企画部長）＜資料 - 1 を説明＞

独立行政法人評価委員会林野分科会については、すでに５月２０日に開催された研究所会議で概略を説明し、資料の作成依頼を行ったところであるが、その後、日程等の調整が進められたので報告する。

まず、６月５日に資料を林野庁に説明し、そこでの指摘を踏まえた修正等を行った上で６月中旬に各委員への事前説明を行い、６月２７日に第４９回林野分科会が開催され、業務実績の報告及び財務諸表の説明を行いこととしている。

その後、７月下旬の林野分科会ワーキンググループ会合において追加説明、８月下旬に第５０回林野分科会が開催され、ここで評価結果と意見についての説明がなされることとなっている。その後、９月初旬までの間に林野分科会から農林水産省独立行政法人評価委員会に評価結果の報告が行われ、最終的に１０～１２月に政策評価・独立行政法人評価委員会の二次評価が行われるという予定になっている。

林野分科会等で説明する資料については、昨年度と同様となっており、現在準備している。

林野分科会の委員については、今回、新たな２年間の任期が始まり、委員では足本委員、文野委員が新任、田村委員は専門委員から委員へ異動、専門委員では徳地専門委員、中山専門委員、横田専門委員が新任となっている。

委員、専門委員の役割分担については、５名の委員は分野を定めず、すべての分野を見ていただくことになり、専門委員については、横田、小島、肘井、中山専門委員が研究開発、片桐、加藤、徳地専門委員が水源林造成事業等を担当していただくこととなっている。ただし、総務分野については全員で見ていただくこととなっている。

７月下旬のワーキング会合において役割分担に応じた評価作業を行っていた

だくことになる。

また、前回の林野分科会において、林野分科会への監事の出席について議論がなされたが、現在その方法について林野庁で検討中と聞いている。

（城土理事）

資料一覧のうち、林野庁事前説明資料、委員事前説明資料以外の資料はどのような扱いとなるのか。

（企画部長）

林野分科会当日に参考資料として配布することとなる。

（理事長）

本件報告については理事会として了承された。

（３）中央労働委員会への調停申請について

（総務部長）

本件は、平成２３年度の人事院勧告における民間給与との較差相当分の減額措置を期末手当で調整することについて、合意に至る見込みが立たないことから本年３月２９日に中央労働委員会に調停を申請したもの。

５月８日に中央労働委員会において、当局、労働組合双方からの説明、意見陳述が行われたが、調停委員会委員長から、労使の自主的な解決を強く希望する旨の発言があり、交渉を再開する考えである。

（理事長）

本件報告については理事会として了承された。

（４）独立行政法人監事等向けセミナーの概要

（西田監事）＜資料 - ２を説明＞

５月８日に新日本監査法人主催の独立行政法人の監事等を対象としたセミナーが開催され、独法改革に関する有識者懇談会の議論の概要と独立行政法人のガバナンス強化についての通則法改正における検討方向のふたつの講演があった。

独法改革については、独法の設立意義に則り、さらなる制度改革を行った上で維持するという立場から、目標・評価、組織・規律、財政規律・報酬給与等

に関する見直しについて議論がされているとのことであった。

また、ガバナンスの強化の具体的な見直しのひとつとして、監事の権限等も含めて会社法の考え方を通則法に取り入れることが検討されているとのことであった。

（理事長）

本件報告については理事会として了承された。

（５）その他

（審議役）＜資料 - 3 を説明＞

議題にはないが、森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法の一部を改正する法律が５月２４日に可決・成立したので審議の概要を報告する。

衆・参両院の農林水産委員会の審議の中で、成長の優れたスギ・ヒノキは花粉量の少ないものを指定すべき、広葉樹についても成長の優れた品種を開発すべき等の質問があった。今後、この点に留意して対応する必要がある。

また、参議院農林水産委員会で附帯決議が行われたが、間伐特措法改正に限らず、財源の確保、木材需要拡大、花粉症対策への配慮、林業公社対策を含めた森林整備、国有林と民有林の連携、放射性物質対策、海岸防災林等被災地復興を進める等森林・林業全般にわたり言及されている。

林木育種センターとしては、都道府県を通じて民間種苗業者等から原種の配布依頼があった際には、適切に対応していきたい。

（青木理事）

少花粉の苗木の供給量は確保できるのか。

（審議役）

スギ少花粉の苗木について、林野庁は平成２９年度には１千万本供給を目標としており、この本数は、近年の苗木生産量全体の約１０数％程度に相当する。関東圏の都県の多くが少花粉スギの採種園を整備しており、関東圏ではかなり普及しているものと認識している。

（理事長）

少花粉スギの普及については、大都市周辺等地域の特性に合わせた優先順位に基づいて行うことが国民の期待に応えることになるのではないかと考えている。

（井上理事）

森林所有者はより成長、形状がいい品種を選択する傾向にあり、エリートツリーの中で少花粉の品種を選抜していく方向で研究を進めている。

（理事長）

広葉樹の話が出たが、具体的な案としてどのような樹種が考えられるのか。

（審議役）

北海道におけるヤナギの実績等を踏まえて、さらに検討したいと考えている。

（理事長）

本件報告については理事会として了承された。

次回の平成25年度第3回理事会は7月4日（木）に開催予定となった。

3．閉会